

『粗野なれど 卑にあらず』

前回の会長挨拶でロシアのプーチン大統領と柔道のお話をしました。柔道家を名乗りながら柔道の教えの基本である「精力善用」「自他共栄」とかけ離れた狂気じみた行動には怒りを通り越し恐怖を感じます。



これと対極の柔道の心を体現している柔道家に東京オリンピックで2連覇を達成した大野将平選手がいます。オリンピック競技をご覧になった皆様には、まだ記憶に新しいところであると思いますが、彼の試合前後の「礼」をはじめとする所作ひとつひとつの美しさには心を引かれるものがあります。

また彼は自分を現わす一人称に「私」を用いる希有なアスリートであり、柔道同様その言葉も強く、心に残ることで知られています。

今回のオリンピックでも、彼はその実力から2連覇確実との前評判でありましたが、金メダルを決めた試合直後のインタビューで「自分が何者であるかを証明する戦いができた」とコメントし他競技のアスリートにも強い感銘を与えました。

そのインタビューでコロナ禍でのオリンピック開催について問われたとき「賛否両論があることは理解しています。ですが我々アスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば光栄に思います。」と答えたことも深く記憶に残っています。

「粗野なれど 卑にあらず」これは元国鉄総裁の石田礼助氏が生涯のモットーとしていた言葉で「言動が雑で粗暴であっても、決して卑しい行いや態度をとらない」という意味ということですが、大野選手が大切にしている言葉であるそうです。

叶わぬこととは知りつつも、何とかこの言葉がプーチン大統領にも届かないものかと願います。